

会報 比較家族史 44

事務局 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-7 弘文堂気付
郵便振替(会費) 00130-4-25222 (年報バックナンバー・その他) 00180-3-604964

比較家族史学会第四七回研究大会

日時 二〇〇五年五月二十八日(土)・二十九日(日)
会場 山形大学人文学部二〇三号室(別添地図参照)
問い合わせ先

〒九九〇一八五六〇 山形市小白川町二一四一二
山形大学人文学部 國方敬司

テーマ 家の存続戦略と婚姻

■一日目・五月二十八日(土) 午前九時五〇分

(午前九時三〇分 受付開始)

□ 会長挨拶 岩本由輝(東北学院大学)

九時五〇分～一〇時

◆自由報告

・工藤豪(日本大学大学院)

婚姻研究の動向——民俗学・人類学を中心にして——

・小口恵巳子(お茶の水女子大学大学院)

一〇時四五分～一二時三〇分

明治民法編纂過程における親の懲戒権

——名譽維持機能をめぐって——

□ 総会

□ 昼食

◆テーマ報告

一一時三〇分～一二時

一二時～一三時

・國方敬司(山形大学) 一三時～一三時三〇分

問題提起・家の存続戦略と婚姻

・岩本由輝(東北学院大学) 一三時三〇分～一四時三〇分

家存続戦略としての婿養子——大名家臣団を事例として——

・木下太志(筑波大学) 一四時三〇分～一五時三〇分

江戸時代の東北——農村の世帯の変遷——

・長谷部弘(東北大学) 一五時三〇分～一六時

近世日本農村社会における畜産経営と相続

・米村千代(千葉大学) 一六時～一六時五〇分

財閥の婚姻戦略と「家」の存続

——明治大正期の事例分析——

永野山紀子(山形大学) 一六時五〇分～一七時四〇分

現代の東北農村における「家」の存続戦略

——山形県庄内地方の事例——

□ 懇親会(一八時)

会場 ホテルキャッスル山形三階「万葉の間」

会費 五〇〇円

■二日目・五月二十九日(日) 午前九時三〇分

◆テーマ報告

・朴光淳(久留米大学) 九時三〇分～一〇時三〇分

韓国における「家門」の存続戦略

——朝鮮時代の両班層を中心に——

・小池誠(桃山学院大学) 一〇時三〇分～一一時三〇分

東インドネシアにおける家と婚姻戦略

・村山聡(香川大学) 一一時三〇分～一二時

中近世ドイツにおける相続パターンの決定要因
 昼食

・高橋基泰 (愛媛大学)

近世英国農民の「イエ存続」

——ケンブリッジ州ウイリンガム教区の事例から——

・伊藤栄晃 (関東学園大学)

ケンブリッジ州チベナム教区のソープ家

——地主家族の危機と戦略——

・伊丹一浩 (茨城大学)

一 九世紀フランスにおける農家の存続戦略

□ シンポジウム「家の存続戦略と婚姻」

一 二時～一三時

一 三時～一三時五〇分

一 三時五〇分～一四時四〇分

一 四時四〇分～一五時三〇分

一 一五時四〇分～一七時三〇分

★五月三〇日(月) 岩本由輝先生のガイドによる、芭蕉の句やムカサリ絵馬(冥婚)で有名な山寺・立石寺のエクスカージョンが予定されています。参加費は無料です。詳細は、研究大会の会場でお知らせします。

運営委員 國方敬司・岩本由輝・長谷部弘・永野由紀子

運営委員会からのお知らせ

- 一 研究大会・懇親会の出欠については、すでにご案内の通り、葉書にて五月二〇日(金)までにお知らせくださいますようお願いいたします。なお、大会参加費は一七〇〇円(会員以外の報告者への旅費補助も含んできます)。懇親会費は五〇〇〇円です。会員以外の方の参加も歓迎いたします。参加費は当日受付にてお支払いください。
- 二 研究大会・懇親会の会場は、すでに送付してありますが、大会会場の地図を同封いたしました。参照してください。
- 三 研究大会の昼食については、弁当を準備いたします。弁当を希望される

方は、同封の葉書でお申し込みください。弁当代は、〇〇〇円程度を予定しています。

■シンポジウムの趣旨説明

【問題提起】「家の存続戦略と婚姻」

ロシアのロマノフ家の君主は、そのほとんどが「政治的適格性を欠いた君主」であったと評価されながら、それでいて彼らはいずれも巨大な権力をふるうことができました。それというのも、民衆も一般の貴族も強い君主に期待していたし、特に民衆には、「法を超えた正義」と「慈悲」を実現する伝統的な「よきツァーリ」への期待が根付いていたからだ、といわれています。しかし一方で、ロマノフ家の場合、七世紀まではロシア貴族の娘を選んで結婚してきましたが、近代化を推し進めなければならぬ一八世紀以降は、ドイツの諸公国との婚姻関係が繰り返され、最後の皇帝ニコライ二世にはロシア人の血がわずかに四分の一しか流れていなかった(実際はゼロらしい)といわれています。ロマノフ家の場合、婚姻関係の結果、ロシア民衆のツァーリ観念と実態としてのツァーリとの間には鋭い亀裂が生まれていたといえます(土肥恒之「よみがえるロマノフ家」講談社)。

家(イエ)については、これまでも比較家族史学会研究大会でしばしば取りあげられ、その成果は、シリーズ比較家族において「家と家父長制」や「家・屋敷地と霊・呪術」などとして公刊されています。それらの論考のなかで、「家」については概念規定をするのがなかなか困難であると指摘されています。それというのも、そもそも「家」とは何なのかという点で論者の間で微妙な理解の相違がみられるためですが、とりわけ「家制度」と「家」との混同が問題を複雑にしているように思われます。今回の「家の存続戦略と婚姻」においても、「家」とは何か、という問題が一つの焦点となりますが、ここでは差し当たって、継承すべき家業・家産をもつ家族集団——ただし、親族以外の者を含む場合もあり、この点で近代「家族」とは異なります——と理解しておきます。

今回の研究大会では、「家」をその存続戦略という側面から分析するのですが、継承すべき家産ないしは家業が存在している場合、その継承を確実にしていく選択肢は、その家業・家産のあり方、あるいは時代・地域によって異なることは容易に想像できます。たとえば、かつての農家では、子どもたち（通常は長男と考えられている）が農家を継ぐのは当然と考えられていました。こうした考え方の基底には、農民が自己の「経済」を、採算がとれなくなつたときには見向きもしなくなるような単なる収入源とみなすのではなく、同時にそれを労働の源とみなしていたからでありました。だからこそ、「農民は、自己の労働による収益がその地方で通常得られる労賃より低い場合にも依然として働きつづけ、それによって将来のための生活の基礎を保持」しようとしたのです（ブルンナー『ヨーロッパ——その歴史と精神』岩波書店）。

しかし現在の農村では、「農家」の親も、子どもたちが自分の好きな道を選んで生活するのを当然、あるいはやむなしとし、それが過疎町村の若者流出を一層促進しているといわれています。また、自分の息子の嫁となる女性から、山間集落から平場に出てくることを条件に出されて、住み慣れた地を離れるのだ、というお年寄りの話を聞いたこともありま

す。ここでは、家系の存続のために、山間集落の崩壊が進行している様相が観察できます。こうした現象は、現在の「農家」意識が、かつての「農家」意識とは乖離し、大きな変容を被っていることから生じたものと考えられます。

くもあれば、優れて現代社会の問題としても重要な課題であります。本研究大会では、日本のさまざまな時代・地域・階層の「家」存続戦略を基軸にして、アジア・ヨーロッパにおける「家」の存続戦略を具体的に報告して頂きます。その上で、①「家」とは何か、②「家」の存続戦略における選択肢が時代・地域・階層によってどのように異なるのか、③何故そうした選択肢の相違が生じるのか、といった問題群について議論を深めていきたいと思っております。

■ 当選理事について

理事選挙管理委員会井ヶ田良治委員長より選挙理事左記二〇名の報告をいただいた。

- 岩本由輝、上野千鶴子、植野弘子、大藤修
- 奥山恭子、落合恵美子、戒能民江、清水浩昭
- 白石玲子、高木侃、福田アジオ、服藤早苗
- 牧田勲、三成美保、牟田和恵、森謙二
- 八木透、山田昌弘、義江明子、若尾祐司

■ 当選理事による理事会議事録

日時 2005年2月26日（土）午後2時
 場所 専修大学1号館
 出席者数 一八名（委任状を含む）
 右記の選挙理事による推薦理事を選任する理事会を開催いたしました。その結果、左記の方々が選任された。

- 飯沼賢司、國方敬司、栗原弘、孝本貢、小島宏
- 嶋陸奥彦、鈴木七美、床谷文雄、野村育世
- 原田順孝、藤井勝、政岡伸洋、村上興匡

吉野晃

■ 理事会議事録

日時 2005年3月30日（水）午後2時
 場所 専修大学1号館
 出席者数 三名（委任状を含む）
 議題に入る前に、上野千鶴子氏から出されていた理事辞退願いが、承認された。

- 1 新会長の選出
投票の結果、次の方が新会長に選出された。
岩本由輝（東北学院大学）
- 2 副会長の任命
規約第8条4にもとづき、会長の指名により次の二名の方が任命された。
戒能民江（お茶の水女子大学）
服藤早苗（埼玉学園大学）
- 3 会計監査・顧問の選任
規約第8条6にもとづき、会計監査二名、山中永之佑・村武精一の両氏が選任された。
また、規約第8条7にもとづき、利谷信義・鎌田浩の両氏（元・前会長）が、顧問に選任された。
- 4 理事の役割分担
理事の役割分担は左記の通り。責任者である委員長のみを記し、その他のものは新しい名簿の末尾に掲載します。
庶務委員長國方敬司、企画委員長三成美保
年報編集委員長白石玲子、シリーズ編集委員長森謙二、渉外委員長高木侃
- 5 6月からの新事務局
左記の通りに決まりました。ただし、引継ぎが

完了する5月の研究大会まではこれまで通り、専修大学高木研究室です。

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1丁目3-1
 東北学院大学文学部 政岡伸洋研究室
 電話 022-721-3359 (研究室直通)
 FAX 022-264-3030 (総務課)
 E-mail

6 新入会員および退会の承認

次の新入会員四名が承認された。
 後藤晴子 (九州大学院生、文化人類学・老年人類学・民俗学)、加賀谷真梨 (お茶の水女子大学院生、文化人類学)、伊丹一浩 (茨城大学、近代フランス農村史)、工藤豪 (日本大学院生、社会学・民俗学)

退会については、名簿作成用ハガキに記載された方がありますが、今後も届くことが予想されること、また規約13条にもとづく退会者についても未整理であり、次回理事会で一括承認の手続きをとることと了承された。

7 年報編集状況

19号の編集状況が報告された。本号は初代会長「水原慶二先生」の追悼号として刊行される。そのためもあり、出版時期がやや遅れ、5月中旬を目途として、校正作業等が進捗している。研究大会で配布できるよう努力しているとのことであった。

8 「シリーズ比較家族」について

シリーズ比較家族第Ⅲ期第3巻、田中真砂子、白石玲子・三成美保編「国民国家と家族・個人」予価3990円(税込)が六月に刊行される予定

であることが報告された。

なお、シリーズ比較家族第Ⅰ期第7巻、利谷信義・鎌田浩・平松紘編「戸籍と身分登録(新装版)」3990円(税込)が本年一月、また同期第8巻、田端泰子・上野千鶴子・服藤早苗編「ジェンダーと女性(新装版)」3885円(税込)は昨年〇月に刊行されました。かつて購入できなかった方には、この機会にお求めください。

9 研究大会について

次回以降の理事会において、研究大会年一回開催に関する検討を行うこととなった。

学会HPについて

入会手続き等はHPからダウンロードできます。アドレスは

<http://www.soc.ni.ac.jp/jscfn/index.html>

会員住所録に関するお願い

住所録作成のためのハガキをお願いいたしますが、返信がない方がおられます。変更がない方は何も記載せずそのままお出しください。また明らかに変更されているにもかかわらず返信のない方もあります。正確な名簿にいたしたく、よろしくお願いいたします。

■ 新入会員の住所および会員の住所・所属等の変更

右記の通り、新しい住所録を編纂中です。それまでお待ちください

■ 会員著書・受贈著書

(単行本・事務局に連絡のあったもの)

国際宗教学研究所編・井上順孝・島崎進監修「新しい追悼施設は必要か」ペリカン社、〇〇四年、六〇〇円

藤原明久著「日本条約改正史の研究」井上・大隈の改正交渉と欧米列国——雄松堂出版、〇〇四年、八〇〇円

江守五夫著「家族の起源 増補版」九州大学出版会、〇〇四年、四二〇円

秀村選三著「幕末期薩摩藩の農業と社会」創文社、二〇〇四年、一万三千円

青柳涼子著「農家族契約の日・米・中比較」御茶の水書房、〇〇四年、五六〇円

中野泰著「近代日本の青年宿——年齢と競争原理の民俗——」吉川弘文館、〇〇五年、七〇〇円

山下晋司編「文化人類学入門——古典と現代をつなぐ20のモデル——」弘文堂、〇〇五年、二四〇円

丸山茂著「家族のメタファ——ジェンダー・少子化・社会」早稲田大学出版部、〇〇五年、四三〇円

三成美保著「ジェンダーの法史学——近代ドイツの家族とセクシュアリティ——」勁草書房、〇〇五年、五六〇円

(いずれも消費税は含まれておりません)